

# みどり 水土里ネット富山だより

(富山の土地改良情報)

2021  
第579号

1月1日発行



## 謹賀新年



常西合口用水(上滝)世界かんがい施設遺産

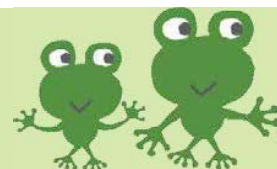
監事	監事	代表監事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	専務理事	副会長	会長
(魚津市土地改良区理事長)	道小島茂生	桜井森夫 (小矢部市土地改良区理事長)	廣瀬慎一 (元庄西用水土地改良区理事長)	夏野元志 (射水平野土地改良区理事長)	奥村隆 (常東用水土地改良区理事長)	上田英俊 (入善土地改良区理事長)	大井正樹 (高岡市土地改良区理事長)	夏野修 (砺波市長)	岩田忠正 (城端土地改良区理事長)	中川忠昭 (常西用水土地改良区理事長)	永森雅之 (富山県議会議長)	鹿熊正一 (朝日町土地改良区理事長)	堂故茂 (参議院議員)

(他 職員一同)



## 水土里ネット富山

(富山県土地改良事業団体連合会)



# CONTENTS

## 1 新年のご挨拶

富山県土地改良事業団体連合会長	堂故 茂	1
全国水土里ネット会長	二階 俊博	2
全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員	進藤 金日子	3
全国水土里ネット会長会議顧問 参議院議員	宮崎 雅夫	4
富山県知事	新田 八朗	5
富山県議会議長	上田 英俊	6
北陸農政局長	岩濱 洋海	7
富山県農林水産部長	堀口 正	8
富山県農林水産部参事 農村整備課長	川島 秀樹	9
富山県農林水産部参事 農村振興課長	宮田 義人	10
2 第14回「元気とやま」むらづくり推進大会の開催		11
3 「令和2年度 とやま水土里賞」表彰式の開催		11
4 全国水土里ネット会長会議顧問 宮崎雅夫氏（参議院議員）来県		13
5 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 中央要請		13
6 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 北陸農政局要請		14
7 富山県知事、富山県議会議員への要請		15
8 農業農村整備の集いー農を守り、地方を創る予算の確保に向けてー		15
9 立山町土地改良区と立山西部土地改良区 合併予備契約調印式		16
10 令和2年度北陸ブロック土地改良区体制強化事業 新規担当者研修		16
11 令和2年度換地関係異議紛争処理実務研修会（北陸ブロック）		17
12 式典 発電所の安全祈願祭・起工式		17
13 <情報>複式簿記導入等相談窓口のご案内		18
<情報>複式簿記導入促進特別研修会の開催中止について		18
14 <情報>富山県農業用水小水力利用推進協議会		18
15 <情報>富山県多面的機能推進協議会		18
16 <情報>非補助農業基盤整備資金のご案内		19
17 <お知らせ>今後の主な行事予定		19



## 新年のごあいさつ

参議院議員  
富山県土地改良事業団体連合会  
(水土里ネット富山)  
会長 堂 故 茂

新年明けましておめでとうございます。令和3年の年頭に当たり、会員ならびに関係皆様に謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日頃から農業農村整備の推進ならびに本会の業務運営に格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、参議院議員として「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」の議員立法による制定、自民党農村基盤整備議員連盟での活動など土地改良関係において一定の成果を挙げることができましたが、一方では新型コロナウイルスが世界的に感染拡大し、新しい生活様式、新しい働き方への変化が求められる激動の年となりました。

こうしたなかでも、豊かな自然に恵まれた富山県の農業農村は先人の長年の知恵と努力により、全国に先駆けて整備された農地や用排水路網等の生産基盤に支えられ、美味しい富山米や園芸作物を育てています。

しかしながら、近年は、農村地域の人口減少、高齢化の進行に伴う農業後継者不足に加え、TPPの発効などの経済のグローバル化、さらにはこの度のコロナウイルス感染症の影響を受け、農業農村は大きな課題に直面しています。これに伴って、農村においては、集落機能が低下し、自然環境や伝統文化などの地域資源の保全活用や農道、用排水路等の管理が困難になっている地域も見られています。

このような時にこそ、農業の成長産業化を図り、生産性の向上や高収益作物導入のための更なる大区画化・汎用化に加えてICTや自動農機技術に対応した生産基盤の整備を進め、農業の体質強化を図っていくことが必要でありますし、一方では特に中山間地域においては、生活圏として人が住み安心して農林業を営んでいける環境づくりを地域振興策として行なっていくことが極めて重要なことと考えております。そして、こうした産業政策と地域政策が共に推進されることが防災と国土保全に大きな役割を果たすものと思います。

昨年末に閣議決定された国予算では、これまでの3か年緊急対策に引き続き防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策とコロナ禍での食料安全保障の確立や国土の保全等が盛り込まれており、土地改良予算としては令和2年度補正予算、令和3年度当初予算合わせて6,300億円が確保されました。これも土地改良関係者が一致団結して活動した成果であり、心から御礼を申し上げます。

また、県内の関係では国営農地再編整備事業「水橋地区」の着工についての予算も盛り込まれており、ICT・スマート農業が導入され「儲かる農業」のモデル地区として期待されています。さらには、昨年末に常西用水土地改良区が管理する常西合口用水が富山県内で初の「世界かんがい施設遺産」に認定されており、あわせてたいへん喜ばしい限りです。

県土連では、今年度中に策定される新たな土地改良長期計画についての議論や食料・農業・農村基本計画の中に取り上げられた「農村におけるSDGsの達成に向けた取組」に注目しながら、県選出の国会議員はもちろん、われわれ土地改良の代表である進藤金日子参議院議員と、宮崎雅夫参議院議員とともに力を合わせて農業農村整備事業の推進に取り組んで参りますので、皆さんの変わらぬご協力をお願い申し上げます。

結びに、コロナウイルス感染症の1日も早い終息を願うとともに本年が皆様とご家族にとりまして希望に満ちた令わしい年となりますように心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年に当たって

全国水土里ネット  
会長 二階 俊博

令和3年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。昨年は、新型コロナウイルスが世界各国で感染拡大し、新しい生活様式、新しい仕事の仕方が求められる等、これまで経験したことのない一年となりました。

また、7月の豪雨や台風による暴風雨により、全国で多くの被害が発生しました。お亡くなりになられた方々の御冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された多くの皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

被災された方々の生活を一刻も早く回復していくためには、被害を受けた農地や農業用施設の復旧・復興が第一に重要であり、日頃から土地改良に携わる皆様方には、全国各地で復旧・復興の先頭に立っていただいていることについて、心から敬意を表します。

全国で32カ所のため池が決壊した「平成30年7月豪雨」を契機として、全国のため池の関係者の方々から、ため池の防災工事を推進するための財政的・技術的な支援を求める声が高まり、昨年6月、ため池に関する特別措置法が議員立法として成立致しました。この議員立法の成立には、多くの国会議員の皆様のお尽力を頂きましたが、中でも進藤金日子・宮崎雅夫両参議院議員には、法案の検討段階から中心となって御活躍頂きました。土地改良関係者が一丸となって、全力で対応した結果であったと思います。心から厚く御礼を申し上げます。

さて私は、本会の会長に就任して以来、「闘う土地改良」を掲げて参りました。そして組織一丸となって闘った結果、補正予算などを含めまして、大幅削減前を大幅に上回る予算を確保することが出来ました。

令和3年度予算につきましては、農業農村整備の着実な推進を求める全国の皆様からの熱意ある要請活動により、政府予算案においては、4,445億円を確保することができました。さらに、令和2年度の補正予算を含めると6,300億円となります。また、防災・減災の為の国土強靱化対策が延長され、新たな5ヶ年加速化対策として、15兆円が予算化されることとなりました。

皆さまの活動に深く敬意を表しますと共に、心から御礼を申し上げます。

いま、全国の農業農村では、過疎化・高齢化、担い手不足に加え、地域活力の低下などの課題が山積しております。また、コメなどを巡る先行き不安から、状況が一段と厳しくなっております。一方で、全国で農業水利施設の老朽化が進行しており、食料生産の増大、非食料用米への転換に支障を来すばかりでなく、国民の生命や財産にも多大な損害をもたらすのではないかと危惧されております。

また、近年、自然災害が大規模化、多発化する傾向にあり、農地・農業用施設でも大変大きな被害が続いています。

これらの農業農村の危機的な事態に鑑み、昨年3月に新しい「食料・農業・農村基本計画」が閣議決定され、農業者はもとより国民の皆様方に農業・農村の現状、課題を理解いただき、食糧供給や国土保全などの多面的な役割を果たす農業・農村は「国の礎」との認識を分かち合い、国民全体で農業、農村を次の世代につないでいくこととされました。

私たち土地改良担当者としましては、これら政府の動きと軌を一にして、これまで培ってきた技術と蓄積された経験を活用し、「闘う土地改良」を活動の基本におきつつ積極的に貢献していくことが重要であると考えており、加えて、水土里ネットが農業農村を守り、発展させていくことの重要性について広く国民の皆様方にアピールし、共感を得ていく努力が必要と考えます。皆様と一体となって取り組み、所期の成果が得られますよう、引き続き奮闘して参りたいと思います。

最後になりますが、本日、輝かしい年の初めに当たり、本年も農業農村が活力を得て、一層発展しますようご期待申し上げますとともに、新型コロナウイルスの不安が払拭され、本年が全国の皆様にとってよき年であり、日々健やかに過ごされますようご祈念申し上げまして、私の新年のご挨拶といたします。



## 新年を迎えて

全国水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員 進藤 金日子

新年明けましておめでとうございます。富山県の皆様には、昨年の「進藤金日子と農山漁村を考える会」等の政経セミナーへのご協力をはじめ、日頃から大変お世話になり、新年を迎えるに当たり衷心より感謝申し上げます。

去年は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。昨年、新年を迎えた時には、まさかこのような事態に陥るとは誰もが想像だにしていなかったと思います。まずは、このコロナ禍を国民一体となって乗り越え、克服することが最重要課題です。

さて、令和2年度第3次補正予算と令和3年度予算の政府案が閣議決定されました。まずは、3か年緊急対策に引き続き「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が事業規模15兆円程度で実施されることになりました。土地改良予算に関しては、令和3年度に執行可能な予算として全国各地域の要請に基づき、補正と当初を合わせて6,300億円確保できました。令和2年度第3次補正予算は1,855億円であり、「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づく施策の実施関連で700億円、防災・減災、国土強靱化と災害復旧の推進関連で1,155億円計上されています。また、令和3年度予算は4,445億円であり、食料安全保障の確立と国土保全等を図ることが明確化され、収益性・防災性の向上に資する農地の大区画化、水田の畑地化・汎用化、農業水利施設の維持・保全等を実施する土地改良事業を重点的に推進することとしています。また、防災・減災、国土強靱化の推進に関連して、激甚化する災害に備えるため、ため池や農業水利施設の整備を推進することとしています。更にポストコロナを見据えた農村の定住条件を整備する農村整備事業も盛り込まれています。これら予算案については、通常国会で審議されますが、まずは令和2年度第3次補正予算の早期成立に向けて全力を尽くし、令和3年度予算の年度内成立に向けて努力して参る所存です。

去年は、宮崎雅夫参議院議員と連携して一定の成果を出すことが出来ました。「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」の議員立法による制定、自民党農村基盤整備議員連盟（二階俊博会長）として「農業農村の振興を先導する土地改良」（全国事例集）の発刊できたこと、自民党女性局機関誌の「りぶる」での土地改良特集の実施などが挙げられます。加えて、土地改良関係者をはじめ多くの方々から様々なご意見をお聴きし、こうした声を国会質問に反映したり、自民党部会等で発言したり、農水省に直接伝えることなどにより、課題解決の一助となった例も多くなってきました。引き続き緊張感を持って農業・農村の振興に向け、しっかりと活動を進めて参る所存です。

富山県の皆様にとって本年が素晴らしい年でありますよう祈念いたしますとともに、更なるご指導とご支援をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



## 令和3年の新年ご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問  
参議院議員 宮崎 雅夫

新年にあたり謹んで初春のお慶びを申し上げ、本年が富山県の農業農村整備関係の皆さま方にとってより佳い一年となりますよう心からお祈りいたします。

皆さま方におかれましては、平素より土地改良の推進、農業農村の活性化にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、私の国政活動にご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、去年は全国で新型コロナウイルス感染症や豪雨災害など、例年にも増して農業農村は厳しい状況に見舞われ、これらの影響や被害を受けられた皆さまには衷心よりお見舞い申し上げ、速やかに元の生活や生産活動に戻り、より一層安全安心な状態が作られるよう私も最大限の努力をしまいる所存です。

近年の自然災害の頻発化、激甚化による全国各地からのご要望を踏まえ、進藤金日子参議院議員と二人で主体的に取り組んだ議員立法「防災重点農業用ため池の対策工事等の推進に向けた特別措置法」が昨年の通常国会で成立し、ため池対策の新たな法的枠組みが作られました。11月には農林水産大臣、総務大臣、防災担当大臣の3大臣会合が開催され、防災重点ため池の整備促進のための地方財政措置を拡充する方向で検討が始まるなど、具体的な対応が進んでいます。国土強靱化対策もこれまでの3ヵ年緊急対策に続く新たな5ヵ年の取組が始まることとなり、ため池対策も含む農村の安全安心に向けた土地改良の推進のため、引き続き努力してまいります。

また、去年は、コロナ禍の中、農業農村の魅力が再認識され、初めて東京からの転出が超過するなど、都市から農村への人の流れが生まれつつあります。この流れをとらえ、農村の活性化を図る農村インフラの持続性確保や情報通信環境整備など農村整備にも改めて取り組んでいかなければなりません。

そして、新型コロナウイルスによる国民食料供給への影響は、幸いにも深刻な事態には至りませんでしたが、全世界的な気候変動なども踏まえれば、食料の多くを海外に依存している我が国にとって、食料安全保障は大変重要な課題であり、食料生産の重要な要素である農地や農業水利施設を、防災・減災の観点のみならず、次世代にしっかりと引き継いでいかなければなりません。これからも進藤議員とともに、これらを守り更に発展させていくため、必要な予算を安定的に確保し、土地改良を計画的に進めていけるよう、皆さま方からご指導をいただきながら努力していきたくと考えています。

結びに、皆さまのご健勝とご多幸を心から祈念いたしますとともに、今年もご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 変えていこう！新しい富山へ

富山県知事 新 田 八 朗

明けましておめでとうございます。令和3年の初春を県民の皆様とともに寿ぎたいと存じます。昨年11月9日、多くの県民の皆様のお温かく力強いご支援とご支持をいただき、富山県知事に就任して、早や2か月が過ぎようとしています。

依然として、新型コロナウイルス感染症による影響が続く、先行きの見通しがつきにくい厳しい状況にありますが、県民の皆様とお約束したことを実現するため、これまでの民間企業経営の経験も活かしながら、「スピード感」、「住民目線」、「現場主義」を大切に、将来世代に責任を持つ県政運営を進めてまいります。

幸い富山県には、先人が築き上げた素晴らしい産業集積や勤勉で進取の気性に富む県民性、歴史や文化、豊かで美しい自然など国内外に誇るべき優れた基盤があります。

また、本県は、日本海側の中心に位置し、東西南北の各県・地域、さらには世界をもつなぐ「北陸の十字路」です。

これらの本県の強みを活かし、北陸新幹線の大阪までの全線整備、港湾、空港、道路の充実を図り、県民や民間企業の皆様、そして県内15市町村が「ワンチームとやま」としてスクラムを組めば、あらゆる分野で「地方の時代」のトップランナーへと飛躍することができます。

そのために私が県民の皆様の声をもとに、とりまとめた八つの重点政策である「経済」、「子育て」、「医療・介護」、「効率化」、「農林水産と地域社会」、「多様性」、「人材育成」、「魅力向上」の実現に向け、八十八の具体策に、スピード感を持って全力で取り組んでまいります。

目下の最優先課題は、新型コロナウイルス感染症から県民の皆様のお命と暮らしを守ることです。引き続き、感染防止対策の徹底や医療提供体制の充実、スピード重視の経済対策に取り組み、県民の皆様とともに、この危機を乗り越えてまいります。

「変えていこう！新しい富山へ。」

県民の皆様のお力で、富山県の未来を変えることができます。「若者からお年寄りまで、希望に満ちた笑顔があふれる富山県」「ワクワクすることがたくさんある富山県」「チャンスがあり夢を叶えることができる富山県」。そんな「県民が主役」の新しい富山県の未来を、一緒に創っていきましょう。

新年にあたり、県民の皆様のお県政に対するご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のごあいさつといたします。



## 新年を迎えて

富山県議会議長 上 田 英 俊

新年明けましておめでとうございます。

令和3年の新春を、皆さまとともに寿ぎたいと存じます。

日頃から本県の農業・農村整備に多大なご尽力をいただき、深く感謝を申しあげます。

さて、我が国の社会経済環境は、少子高齢化の進行と人口減少時代の到来、グローバル化の一層の進展や環境・エネルギー問題、テロ・事件、災害による社会不安の顕在化など大きく変化しております。

また、農業・農村を取り巻く環境は、担い手の高齢化や後継者不足、農産物価格の低迷や産地間競争の激化など、転換期を迎えているなか、昨年は新型コロナウイルスの感染拡大が経済社会に重大な影響を与え、個人も生活や職場での様式の変化を迫られた激動の一年でありました。

こうしたことから県では、アフターコロナを見据え、本県の実情に即した政策が構築されるよう国に働きかけるとともに、デビュー3年目を迎えた富山米新品種「<sup>ふふふ</sup>富富富」の生産拡大や効果的なPRの推進等による富山米のブランド力向上、県産農産物等の国内外への販路拡大、担い手への農地集積、園芸生産の拡大等による所得向上、ICT等を活用したスマート農業の推進や農地の大区画化・汎用化等の農業生産の基盤づくりなどに積極的に取り組むこととしております。

県議会といたしましても、必要な公共事業予算の確保や安心して農林水産業を営める環境づくり等への積極的な支援などにより、本県農業・農村がより元気になるよう全力を尽くしてまいり所存であります。

皆さまにおかれましても優れたノウハウや技術力を活かし、個性豊かな魅力ある農業・農村づくりに向けて、一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとって希望に満ちた幸多い年でありますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。





## 年 頭 挨拶

北陸農政局長 岩 濱 洋 海

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、日頃から農林水産行政に対する御理解、御協力を賜り、とりわけ農業農村整備事業の推進に御尽力をいただいていることに厚く御礼申し上げます。

さて、我が国の農業・農村は、国民生活に不可欠な食料を安定供給するとともに、その営みを通じて、国土保全等の多面的な役割を果たす、まさに「国の基」であります。しかしながら、農業者の減少や高齢化、グローバル化の進展、頻発する自然災害やCF S等の家畜伝染病の発生、さらには新型コロナウイルス感染症の感染拡大による農業への影響など新たな課題にも直面しています。

こうした中、農林水産省では、昨年3月に新たな「食料・農業・農村基本計画」を策定しました。本基本計画では、人口減少が本格化する社会にあっても、食料・農業・農村の持続性を高めながら、農業や食品産業の成長産業化を促進する「産業政策」と、多面的機能の維持・発揮を促進する「地域政策」を車の両輪として各分野の施策を講じることとしています。

耕地面積の約9割が水田である北陸地域では、水稲を中心に大規模な法人経営や集落営農が展開され、経営規模の拡大が図られています。しかしながら、若い農業者の育成・参入には苦勞しており、このような状況を打破し、北陸の水田農業を発展させるためには、野菜や果樹などの高収益作物の導入、農業生産コストの縮減、6次産業化や輸出への取組を推進し、担い手にとって魅力ある“儲かる農業”を実現していく必要があります。

そのためには、大区画ほ場整備による担い手への農地の集積・集約化と生産コストの削減、水田の排水条件整備や畑地化など生産基盤の整備が重要と考えています。また、労働力不足や営農の省力化を推進するため、自動走行農機やICT水管理に対応した生産基盤の整備も推進する必要があります。

老朽化しつつある基幹的農業水利施設については、計画的かつ効率的に補修・更新等を行ってまいります。加えて、近年激甚化する豪雨や地震に適切に対応し、安定した農業経営や農村の安全・安心な暮らしを実現するため、農村地域の防災・減災対策に取り組み、農業・農村の強靱化を推進してまいります。

土地改良区については、農地の整備や農業用水の管理を通して、生産基盤の維持、地域資源の保全において重要な役割を担って頂くとともに、農業・農村の構造変化やスマート農業等にも対応していけるよう、事務コストの縮減など運営体制の強化を図るための合併や土地改良区連合の設立を推進することとしています。

北陸農政局としましても、素晴らしい北陸の農業・農村が、次の世代へ確実に引き継がれるよう、農業農村整備事業を推進し、豊かな食生活とそれを支える地域社会を維持していきたいと考えています。

結びに当たり、本年も引き続き農林水産行政の推進について御理解と御協力をお願いしますとともに、富山県土地改良事業団体連合会の皆様にとって実り多い年となりますことを御祈念申し上げます。年頭の挨拶と致します。



## 新年のごあいさつ

富山県農林水産部長 堀 口 正

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい初春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会、土地改良区をはじめ関係の皆様方に謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

日頃から本県の農業農村整備はもとより、農政の推進に格別のご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、農業農村を巡っては、産地間競争の激化や少子高齢化による後継者不足が続く中、スマート農業・デジタル技術の急速な発展、SDGsへの関心の高まり等といった新たな潮流も生じています。また、農業は県民の「いのち」と「暮らし」を支える生命産業であり、幅広く施策を展開していくことで、競争力の高い農業と豊かで美しい農村を実現し、次の世代へしっかりと継承してまいりたいと考えております。

このため、県では、農業経営の安定化と収益力の向上に向け、農地を大区画化し、担い手への集積・集約化を加速させ、米の生産コストの大幅な低減化を進めております。また、「富富富」をはじめとした富山米のブランド強化や、農作業の省力化や生産性の向上に向け、スマート農業の推進に取り組むほか、「とやま農業未来カレッジ」等による新規就農者の育成・確保に積極的に取り組んでいるところです。

国の令和3年度当初予算では、国営農地再編整備事業「水橋地区」が新規着手地区として概算決定され、地域農業の発展の全国のモデル地区となることが期待されています。

また、農地の大区画化・汎用化にあわせた農業機械や施設の整備を進め、園芸の1億円産地づくりをより一層加速化することとしております。

さらに、一昨年に施行された改正土地改良法の内容を踏まえ、各土地改良区では、将来を見据えた体制づくりを進められていますが、県としても、令和4年度決算に向けた複式簿記の導入支援など、これまで以上に土地改良区の体制強化を積極的に支援してまいります。

平成22年には国の土地改良事業関係予算が大幅に削減されましたが、県では、毎年必要な予算の確保に懸命に取り組んでまいりました。県の令和2年度予算においても元年度2月補正予算を含めて178.3億円を確保し、着実に事業を推進しています。今後とも、国事業を積極的に活用し、事業制度の充実を図るとともに、事業化に必要な予算の確保に努めてまいります。

本年も、本県の基幹産業である農業が守られ、意欲ある農業者が夢と希望を持ち安心して営農に取り組めるよう、県として、職員一同、心を一つに全力で取り組んで参りますので、会員各位におかれても、引き続き、本県農政の推進により一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、土地改良関係団体の限りないご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。



## 新年のご挨拶

富山県農林水産部参事  
農村整備課長 川島 秀樹

令和3年の新春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会、土地改良区をはじめ関係の皆様方に謹んでご挨拶を申し上げます。

また、日頃より、本県の農業農村の振興、及び土地改良事業の推進に格別のご理解とご尽力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

農業農村を取り巻く環境は、人口減少や高齢化等の進行、頻発する自然災害に加え、想像し得なかった新型コロナウイルスの蔓延とそれによる社会・経済秩序の大きな変化という深刻な課題に直面し、これまで正しいとされてきた既存概念やルールの見直しの必要も生じています。

一方で、AIやIoTなどの技術革新が急速に進み、農業分野においても、農業のDX、農業機械のロボット化などスマート農業の進展が著しく、現場への早期導入が求められています。

国の農業農村政策に目を向けると、新たな食料農業農村基本計画が策定され、昨年末には国土強靱化5か年加速化対策が閣議決定されました。現在、新たな土地改良長期計画の策定に向けて、生産基盤の強化による農業の成長産業化、多様な人が住み続けられる農村の振興、それを下支えする農業農村の強靱化を3本柱として詰めの議論が行われており、注視しています。

一方、県内の土地改良の動きとして、農業競争力強化の観点では、儲かる農業のモデル地区を目指す国営農地再編整備事業「水橋地区」が今年着工予定であり、県内各地でもスマート農業に関する最先端プロジェクトが進められています。農地整備への要望も多く、スマート農業技術の積極的活用や地域特性を活かした園芸作物導入の機運も高まっており、元気で活力ある富山型農業を展開する基盤形成が着実に進んでいます。また、国土強靱化の観点では、ため池工事特措法等に基づく対策や水利施設の保全管理を着実に進めていくこととしています。

さらに、常西合口用水が県内で初めて世界かんがい施設遺産に認定されたことも喜ばしい話題です。歴史的施設は各地に存在しており、その価値を発信し地域の活性化につなげることが期待されます。

新型コロナは社会生活にも大きな変化をもたらしました。リモートワークやオンライン会議など、当面先の話と思っていたことが全国で一気に進み、我々自身の仕事の進め方も大きく変化しています。

そのような中、魅力ある本県の農業農村が、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の中であっても持続的に発展していけるよう、皆様方とともに、地に足をつけて様々な取り組みを柔軟かつ大胆に進めていくことが重要と考えておりますので、引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後に、新型コロナウイルスの早期終息と、本年が皆様とご家族にとりまして、幸多き年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 年頭ごあいさつ

富山県農林水産部参事  
農村振興課長 宮田 義人

新たな生活様式を明るく未来のための行動と心新たにす年初めにあたり、謹んで初春のお慶びを申し上げます。皆様方には、日頃から本県の農業・農村の振興に格別のご尽力とご理解、ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、東京オリンピックをはじめ国内外のほとんどの活動が自粛ムードに包まれ、開催が控えられました。中でも、急遽国より休校要請され、約3か月のあいだ自宅待機となった学生や子供たちには、卒業式や入学式、その後の部活動の大会や修学旅行など、この年にしかないチームや仲間たちとの経験をさせてあげられなかったことは、本当に残念に思います。今年こそは、社会生活においても、節目の行事がつつがなく執り行える年となるように、新たな生活様式を実践していきたいと思っております。

さて、農山村、特に中山間地域においては、少子高齢化・人口減少が都市に先駆けて進行する一方で、コロナ禍による都市集中の危うさや、リモート勤務などの普及により、田園回帰による人の流れが全国的に広がるなど、農山村の持つ価値や魅力が再評価されています。多様なライフスタイルの普及や、関係人口の拡大が進もうとしている今こそ、農山村地域を活性化するチャンスが来るとも言えます。

農山村地域への移住の動きの一つとして、「地域おこし協力隊」があります。1年から3年の間、非常勤の公務員として各種の地域協力活動を行う方々で、その約6割が地域に残っています。従来は単身の男性、単身の団塊の世代でしたが、最近はファミリー層が増えているほか単身の女性の例も出ています。また、Uターン、いわゆるよそ者が地域に入り、ブログ等で日常を発信することが情報提供となり、Uターンで親元に帰る事例も出てきています。

こうした田園回帰の動きを後押しするためには、「移住コーディネーター」の役割が重要で、移住を決意する理由に彼らの助言によるとの回答も少なくありません。移住にあわせて農業を始める人も多いですが、いきなり新規参入ではなく、半農半X(自分や家族が食べる分は小さな自給農でまかない、残りの時間「X」を自分のやりたいことをする生き方)からスタートし、急がず、地域に解け込んでもらうところから始めるよう、本人にも地域の方々にも助言する役割を担う人づくりが大切です。

県としましては、地域おこし協力隊の皆さんの協力による活動をはじめ、地域づくりを実践している輝いた地域が人を呼ぶと考えており、人が集まる農山村地域の実現に向けて、地域の皆さんとともに知恵を絞ってゆく所存です。どうか皆様方におかれても、農山村地域が今後とも持続可能な地域社会となって、農業・農村のもつ多面的機能が長く発揮され続けるとともに、一人ひとりが夢にチャレンジできる、県民の皆様が主役のワクワクする富山県を実現できますよう、一層のご支援、ご協力をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

終わりに、土地改良関係団体のご発展と、皆様方の今後ますますのご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

## 第14回「元気とやま」むらづくり推進大会の開催

令和2年11月24日に富山県民会館ホールにて、富山県主催による第14回「元気とやま」むらづくり推進大会が開催され、農業及び土地改良関係者等約700人が出席しました。富山県では農業・農村の振興と多面的機能の発揮を図るため、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度、耕作放棄地対策や都市農山漁村交流を推進しており、これら取組の必要性や成果を県民の皆さんに広くお知らせするとともに、活動指導者の情報交換等を図るために開催されたものです。山崎康至副知事の挨拶のあと、来賓として岩濱洋海北陸農政局長、上田英俊県議会議長、鹿熊正一富山県土地改良事業団体連合会副会長の挨拶があり、引き続き今年度 農村振興・環境保全優良活動コンクール知事賞の受賞5団体に副知事から賞状が贈られました。

次に、受賞5団体から活動内容について事例発表があり、その後、富山県産特産品の抽選会が行われました。最後に「元気とやまむらづく

り」に向けて総力を挙げて取り組むとの大会宣言がされました。

優良活動受賞団体は、次の5団体です。

- ◇花房環境改善活動委員会（朝日町）
- ◇NPO法人山田の案山子（富山市）
- ◇四谷尾集落（立山町）
- ◇横越下環境保全会（高岡市）
- ◇本江環境保全委員会（南砺市）



## 「令和2年度 とやま水土里賞」表彰式の開催

令和2年9月30日（水）富山県庁3階特別室において、富山県主催による「令和2年度とやま水土里賞」表彰式が開催され、石井富山県知事、堀口農林水産部長、永森富山県土地改良事業団体連合会専務理事、とやま水土里賞受賞者、関係者が出席されました。

表彰式の最後に主催者を代表して、石井知事からの挨拶がありました。

とやま水土里賞とは、土地改良施設の有する多面的機能の発揮等、優れた維持管理活動を実践している団体・個人に授与し、土地改良施設の維持管理に対する地域住民の意欲の高揚と県民への啓発を図るものです。今年度から、土地改良事業を契機とした農村地域の振興に尽力されている方々も対象になりました。

受賞されたのは、次の3団体と2個人の方々です。おめでとうございます。

- 団体の部
  - ・石戸用水維持管理委員会：維持管理部門（富山市）
  - ・加納地区管理区：維持管理部門（氷見市）
  - ・東般若地区委員会：土地改良事業部門（砺波市）
- 個人の部
  - ・西島 隆雄 氏：維持管理部門（朝日町）
  - ・吉田 宗重 氏：維持管理部門（富山市）



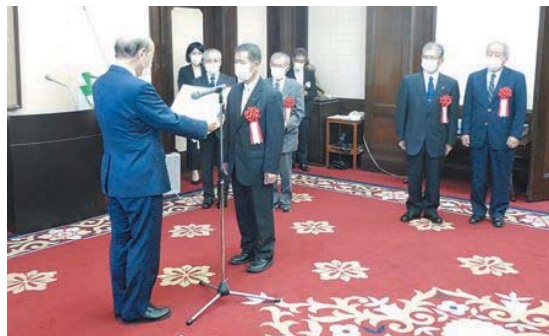
### ■団体の部



石戸用水維持管理委員会：維持管理部門（富山市）



加納地区管理区：維持管理部門（氷見市）



東般若地区委員会：  
土地改良事業部門（砺波市）

### ■個人の部



西島 隆雄 氏：維持管理部門（朝日町）



吉田 宗重 氏：維持管理部門（富山市）

## 全国水土里ネット会長会議顧問 宮崎雅夫氏(参議院議員) 来県

令和2年10月14日(水)、全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎雅夫氏(参議院議員)が来県されました。

はじめに、庄川左岸地区の山王川調整池(砺波市)を現地視察されました。

その後、庄川合口用水会館では県営基幹水利施設ストックマネジメント事業庄西2期地区及び附帯県営庄川左岸3期地区についての意見交換が、庄西用土地利用改良区、鷹栖口用土地利用改良区及び庄川沿岸用土地利用改良区連合の役員を

交えて行われました。

次に、針山口用水路(高岡市)を現地視察し、庄川右岸用排水対策について庄東用土地利用改良区役職員との意見交換が行われました。

上条地区センター(富山市)では、国営農地再編事業水橋地区令和3年度採択について、国営水橋地区農地整備期成同盟会並びに水橋地区国営土地利用改良事業促進協議会との意見交換が行われ、その後、現地を視察されました。



山王川調整池を視察する宮崎氏



庄西用土地利用改良区及び鷹栖口用土地利用改良区、庄川沿岸用土地利用改良区連合役員と意見交換する宮崎氏



針山口用水路を視察する宮崎氏



国営水橋地区農地整備期成同盟会並びに水橋地区国営土地利用改良事業促進協議会と意見交換する宮崎氏

## 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 中央要請

令和3年度の概算決定に向けて、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会(幹事県 石川県)では北陸四県の各土連の会長、副会長、事務責任者が、令和2年11月19日~20日に東京都内に

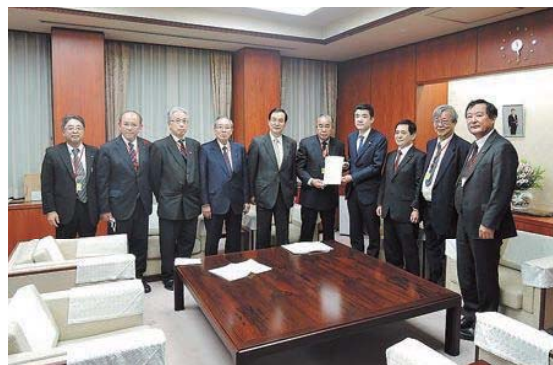
て、自由民主党本部と各県選出国會議員、財務省にて財務大臣ほか幹部職員、農林水産省では農林水産大臣ほか幹部職員に対して農業農村整備事業当初予算増額の要請を行いました。

要請先

自由民主党、財務省、農林水産省、県選出国會議員



自由民主党 二階幹事長



野上農林水産大臣



進藤参議院議員



宮崎参議院議員



角田主計局次長



奥田農村振興局次長

## 北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 北陸農政局要請

令和2年11月26日（木）、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会は各連合会から専務理事並びに事務局が出席し、農業農村整備事業推進に関する要請活動を行いました。

その後、北陸農政局幹部との意見交換を行いました。



岩濱北陸農政局長



## 富山県知事、富山県議会議員への要請

令和2年12月18日(金)、令和3年度の予算編成に向けて、堂故会長と理事、監事が、新田八朗富山県知事ならびに県議会議員に農業農村整備推進の要請活動を行いました。

要 請 先 新田知事、県議会議員

- 要請事項
1. 農業農村整備事業関係予算の十分な確保
  2. 大区画化ほ場整事業の推進
  3. 農業水利施設の耐震・安全対策の推進
  4. 農家負担の軽減対策の充実
  5. 土地改良区が行う事業事務への支援
  6. 日本型直接支払制度の充実
  7. 中山間地域を守るための事業の充実
  8. 土地改良区運営への支援



## 農業農村整備の集い 一農を守り、地方を創る予算の確保に向けてー

令和2年11月20日(金)、砂防会館「シェンパッハ・サポー」において農業農村整備の集いが開催されました。国会議員を含め約400名の土地改良関係者が全国から参集しました。農林水産省からは野上浩太郎農林水産大臣、葉梨康弘農林水産副大臣をはじめ牧元幸司農村振興局長、奥田透同局次長ら幹部が出席されました。

開催にあたり、全土連会長二階俊博氏から主催者挨拶があり、その後多数の来賓の方々より祝辞がありました。

引き続き、令和3年度当初予算をはじめとした12項目の要請書が提案され、全会一致で採択されました。



全国土地改良事業団体連合会 二階会長



野上農林水産大臣

## 立山町土地改良区と立山西部土地改良区 合併予備契約調印式

令和2年7月10日に立山町民会館において、立山町土地改良区と立山西部土地改良区の合併予備契約調印式が行われ、両土地改良区、立山町、富山農林振興センター等の関係者約50名が出席しました。

立山町土地改良区は、経営基盤の強化と運営の合理化を促進するため、平成18年2月、当時の複数の土地改良区が合併し今日に至っていますが、度重なる農業政策の転換と農村環境の変化等により、土地改良区に課せられた使命は一層多様化、複雑化しており、良好な土地改良施設を維持し、未来永劫に繋いでいくためには、盤石な組織体制の構築と更なる合理化が求められていました。

平成30年12月、立山西部土地改良区から立山町土地改良区との合併の申入れを機に、令和元年7月に両土地改良区を中心に富山県をはじめ関係機関等からなる「立山町区域土地改良区統合整備

推進協議会」を設立し、両土地改良区の重複解消、総代及び役員定数など、合併に必要な事項について協議を重ねて、この度合意がなされました。

調印式には、窪田一誠立山町土地改良区理事長（推進協議会会長）の開催挨拶、経過報告、合併予備契約書の確認の後、両土地改良区理事長（窪田立山町土地改良区理事長、安田 勇立山西部土地改良区理事長）並びに立会人の舟橋貴之立山町長、南 理富山県富山農林振興センター所長が合併予備契約書に署名捺印されました。

続いて、舟橋立山町長、南富山農林振興センター所長、亀山 彰富山県議会議員、内山 昭立山町議会議長の来賓祝辞があり、閉式となりました。

今後は、令和3年1月の合併認可を目標に、新しい「立山町土地改良区」として、受益面積2,959.4ha、組合員数2,724名となる予定です。

土地改良区名 (合併前)	受益面積(ha)	組合員数(名)
立山町土地改良区	2,356.9	2,260
立山西部土地改良区	602.5	549



## 令和2年度 北陸ブロック 土地改良区体制強化事業 新規担当者研修

令和2年8月19日から8月20日にかけて、新潟市の県土連ビルにおいて、令和2年度北陸ブロック土地改良区体制強化事業 新規担当者研修（当番県：新潟県土地改良事業団体連合会）が開催され、北陸四県の県、市町村、土地改良区及び県土連担当者約50名が参加しました。

研修は、渡辺仁新潟県土地改良事業団体連合会専務理事の開催挨拶のあと、新潟県、新潟地方法務局、北陸農政局、新潟県農林公社、新潟県土地改良事業団体連合会より講師を招いて、下記の内容で行われました。

日時	研修内容	講師
8月19日	土地改良法の概要	新潟県農地部農地計画課 土地改良団体係 係長 圓山 亮
	不動産登記法の概要	新潟地方法務局 不動産登記部門 登記官 笹谷健司
	河川法	新潟県土木部河川管理課 水政係 主事 竹野友貴
	道路法	新潟県土木部道路管理課 路政係 主任 木村桃子
	換地計画書作成	新潟県土地改良事業団体連合会 換地部換地第2課 課長補佐 高橋皆平

日時	研修内容	講師
8月20日	換地理論	北陸農政局農村振興部土地改良管理課 課長 松本公一
	農地中間管理事業の概要	新潟県農林公社 農地中間管理事業課 課長 丸田邦弘
	確定測量の概要	新潟県土地改良事業団体連合会 換地部測量課 課長 稲葉 誠



河川法



換地理論

## 令和2年度換地関係異議紛争処理実務研修会(北陸ブロック)

令和2年10月20日～21日 富山市内において、令和2年度換地関係異議紛争処理実務研修会(主催:全土連、開催県:富山県土連)が開催され、農村振興局・北陸農政局・全土連・北陸4県の県・県土連の換地担当者30名が出席しました。

挨拶の後、農村振興局土地改良企画課の前田課長補佐から「換地を取り巻く状況について」と題して中央情勢について報告が行われました。引き続き新潟県・福井県の換地関係異議紛争処理事例に基づくケース・スタディーの検討会が

行われました。テーマは、「一人の有力権利者が不換地希望者の土地を大量に買い占め問題となった地区の事例」、「二重線引き畦畔の地区編入処理事例」について、活発な意見交換及び総括が行われました。翌日は、石川県から「農地中間管理機構関連農地整備事業の実施状況と課題等」について説明があり検討会が行われました。最後に、中央換地センターから「土地改良換地異議紛争の未然防止に係る啓発普及資料等について」等の説明が行われ全日程を終えました。



## 式典 発電所の安全祈願祭・起工式

令和元年度に地域用水環境整備事業で着手した地区において、安全祈願祭並びに起工式が下記のとおり行われました。

	年月	地内	最大出力(kW)	事業工期	事業主体
新田用水発電所 (新田用水地区)	令和2年 10月8日	富山市 八尾町新田・三田	93	令和 4年度	井田川水系 土地改良区
宮腰用水発電所 (久婦須川地区)	令和2年 10月19日	富山市 八尾町宮腰	123	令和 4年度	久婦須川 土地改良区



新田用水発電所



宮腰用水発電所

## 情 報

### 複式簿記導入等相談窓口のご案内

本会では土地改良区等に対して以下のような事案の相談窓口を設置しております。

1. 複式簿記会計の導入
  2. 外部監査の導入
  3. その他会計経理の課題
- ご相談・お問い合わせ 総務課 TEL 076-424-3300

### 複式簿記導入促進特別研修会の開催中止について

全土連主催の「令和2年度複式簿記導入促進特別研修」について、昨年同様研修会が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため研修会の開催を見送りました。

### ◆富山県農業用水小水力利用推進協議会◆

◆土地改良区体制強化事業の一環として、農業水利施設を活用した小水力等発電設備の円滑な導入・運営を図るため、全土連が開催する研修に当協議会から下記のとおり参加しました。

名称	月日	研修内容	参加人数	備考
【発電技術研修】	R2.9/23～9/24	・小水力発電の概要及び固定価格制度の動向、水利権について ・小水力発電の計画運営と施工、経済性評価について	7名	オンライン
【発電運営研修】	R2.11/5, 11/25	・土地改良区会計について ・発電会計の事例	16名	オンライン
【発電維持管理研修】	R2.11/6, 11/26	・小水力発電設備の維持管理 ・太陽光発電の保守点検	7名	オンライン

### ◆富山県多面的機能推進協議会◆

富山県多面的機能推進協議会では多面的機能支払交付金の活動の活性化・継続性の確保を目的としており、令和2年10月13日に富山産業展示館(テクノホール)にて、「多面的機能支払推進研修会」を開催したところ、活動組織、関係機関などから約650人が参加しました。

研修会では「草刈り作業の安全と草刈り機の適正な使用について」(片山安心コンサルタント合同会社 片山 昌作 氏)の講演を受けました。また、同時に活動に必要な資材や機械、事務支援ツールなどの企業・団体ブース展示を行い、研修会でもパネル・ブース展示企業の技術紹介が行われました。

◆非補助農業基盤整備資金のご案内◆

1. 非補助農業基盤整備資金とは

土地改良区等が国からの補助を受けないで、かんがい排水やほ場整備、客土などの事業に取り組み、農業生産基盤整備・保全の推進を図る場合、日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対し低利で融資する資金です。国の補助対象でない県又は市町村単独による補助事業についても、融資の対象となります。

2. 対象となる事業種類・内容

かんがい排水、畑地かんがい、ほ場整備、暗渠排水、客土、農道、索道(軌道等運搬施設を含む)、畦畔整備、農地造成、防災・農地保全、農業集落排水(農村下水道)、発電施設。

維持管理計画書作成に係る調査費、土地改良区事務所の新增築、事務機器や複式簿記導入に係るシステム、車両など。

3. 融資条件

●貸付対象者

土地改良区、土地改良区連合(事業主体となる場合に限る)、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む方、農業振興法人

●償還期間 25年以内(うち据置期間10年以内)

【農業農村整備資金利率】

区 分		R 2. 11. 18現在
補 助 事 業	県 営	0.45 %
	団 体 営	0.30 %
非 補 助 事 業	一 般	0.30 %

〈お問い合わせ先〉

- ・ 富山県農林水産部農村整備課換地業務係 076-444-3375
- ・ 北陸農政局農村振興部土地改良管理課 076-263-2161 (代表)
- ・ 富山県土地改良事業団体連合会事業部管理指導課 076-424-3380

〈融資担当機関〉

- ・ 日本政策金融公庫富山支店 076-441-8411
- ・ 農林中央金庫富山支店 076-445-2508 (公庫受託課)

お 知 ら せ

今後の主な行事予定 (令和3年1月～)

月 日	会 議 と 行 事	場 所	参 加 対 象	備 考
2月12日 ～15日	とやまの農山村写真展 表彰式・展示	富山県民会館 (ギャラリーD)	一般	県
2月	ため池監視・管理体制の研修会	県 土 連	県・市・町、 ため池管理者	県
2月	換地計画実務者研修会	富 山 市 内	換地士・県 土地改良区等	主催
3月	本会 第63回通常総会	ホテルグランテラス富山	会員・来賓等	主催

(注) 本案はあくまでも予定であり、別途詳細案内等を確認のうえ参加ください。

## 令和2年度「とやま水土里賞（知事賞）」受賞者の紹介

### ■ 個人の部 ■



西島 隆雄氏（朝日町）  
下山分水ゲートの操作状況



吉田 宗重氏（富山市）  
八ヶ分水門の操作状況

### ■ 団体の部 ■



石戸用水維持管理委員会（富山市）  
余水吐被災後の復旧作業状況



加納地区管理区（氷見市）  
用水路の江ざらい状況



東般若地区委員会（砺波市）  
玉ねぎの収穫状況



みどり  
水土里ネット富山  
農村環境を保全する

農業農村整備事業等の調査・測量設計等業務に関する  
ご相談は、下記までお問い合わせください。

## 富山県土地改良事業団体連合会

〒939-8214 富山市黒崎17番地  
TEL076-424-3300 FAX076-424-3332  
<http://www.tym-midori.net/tomidoren>

